真宗大谷派金沢教区

宗祖親鸞聖人 七百五十回 御遠忌法要

よろこびは いつもここに

～今、親鸞さまに出あう時～

鶴来別院 2023年 5月13・14日

金沢別院 2023年 5月19・20・21日

真宗大谷派 鶴来別院（石川県白山市鶴来清沢町ヨ12）

真宗大谷派 金沢別院（石川県金沢市安江町15-52）

https://www.oyama-net.jp

最新情報は「おやまねっと」でご確認ください。 おやまねっと

主催:金沢教区 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌委員会

お問合せ:真宗大谷派（東本願寺）金沢教務所

〒920-0854 石川県金沢市安江町15番52号 TEL:076-265-5191 FAX:076-265-5192

目次

ご挨拶 真宗大谷派 門首 大谷 暢裕 …… 2
ご祝詞 真宗大谷派 宗務総長 木越 渉 …… 4
ご挨拶 御遠忌委員会委員長 金沢教区会議長 坂本 学 …… 6
ご挨拶 金沢教務所長 髙桒 敬和 …… 8
真宗大谷派 門首 表白 …… 10
鶴来別院 法要日程 5月13日(土) …… 14
鶴来別院 法要日程 5月14日(日) …… 16
金沢別院 法要日程 5月19日(金) …… 18
金沢別院 法要日程 5月20日(土) …… 20
金沢別院 法要日程 5月21日(日) …… 22
鶴来別院案内図／鶴来別院周辺地図 …… 24
金沢別院案内図／金沢別院周辺地図 …… 25
御遠忌紹介 あゆみ展／花展 …… 26
子どもごえんき 5月28日(日) …… 27
御遠忌紹介 記念講演 …… 28
御遠忌紹介 おてらくご／ほのぼのバザール …… 29
御遠忌紹介 ダキシメルオモイ展&音楽のつどい／御遠忌讃仰講演会 …… 30
御遠忌紹介
第51回石川地区同朋大会 金沢教区御遠忌讃仰音楽法要／事業報告 …… 31
親鸞聖人の生涯 …… 32
協賛企業社広告 …… 34
御遠忌ギャラリー 3年代ポスター …… 40

御遠忌を迎えるにあたって

御遠忌テーマ
「よろこびは いつもここに　— 今、親鸞さまに出あう時 —」

御遠忌テーマの願い

かつてこの地は「真宗王国」と呼ばれるほど各地で御講(おこう)がひらかれ、生活の中に念仏の声があふれていました。ところが今、親鸞聖人が命がけであきらかにされた念仏のいわれを聞く場が少なくなってきています。

親鸞聖人が生きた時代は貴族と武家の権力争いによる動乱期であり、さらに飢饉や疫病によって都は死人であふれ、それはまさに恐れと不安に満ちた世でありました。そして現代も、新型コロナウイルス感染症拡大によって、様々な問題が顕在化しています。いつの時代にも、恐れと不安を抱えた孤独な人間の相(すがた)があるのです。

親鸞聖人は、よきひと法然上人との出遇(あ)いを通して、生まれた意義と生きるよろこびを本願念仏に見い出され、真宗の仏道として広くあきらかにされました。そして生きづらいこの世界にあっても、すべてのいのちが等しく生きていけることを教えてくださっているのです。

このたび、金沢教区の御遠忌を金沢別院・鶴来別院において、御遠忌テーマ「よろこびは いつもここに — 今、親鸞さまに出あう時 —」を掲げ、いま一度親鸞聖人より伝えられた本願念仏の一道を、私たち一人ひとりがたずね歩んでまいりたいと思います。

ご挨拶

真宗大谷派門首　大谷　暢裕

本日、ここに、金沢教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要がお勤まりになり、そのご縁に遇わせていただきましたこと、誠に有難く存じます。

先の真宗本廟における宗祖御遠忌法要は、全国から御参集頂いた数多の御同朋とともに、今現在説法したまう宗祖の御真影の御前において正信偈を唱和し、宗祖としての親鸞聖人に遇う大切な仏縁となりました。

殊に、御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を標榜し展開する中で、東日本大震災に遭遇し、尊いいのちが失われた現実に、あらためて『大無量寿経』の「無有代

者」のみ教えを思い返さずにはおれませんでした。

宗祖親鸞聖人が歩まれた道は、一切衆生が救われる本願念仏の大道であり、煩悩成就の身であるわれらがそのままで救われる「生死出ずべきみち」であります。そして宗祖は三国七祖のお導きによって『顕浄土真実教行証文類』をご製作になられ、永く私たちの真に生き抜く道を顕かにされました。

ここに大乗仏教の至極たる浄土の真宗が開かれ、時代と国を超えて全ての人々の苦悩と悲しみにこたえる大きな意義をもって、現代にはたらき続けています。

この上には、本日の御遠忌法要を勝縁として、いよいよ自信教人信の誠を尽くし、あらゆる人々とともに同朋社会の顕現に努めていただきますよう念じ、ご挨拶といたします。

ご祝詞

真宗大谷派宗務総長　木越　渉

本日茲に金沢教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が執り行なわれますことは洵に慶びに堪えません。

憶えば、親鸞聖人は永い求道生活の中で法然上人と値遇され、師友の学びを通して三国七祖の教説に導かれて、真実の教、『大無量寿経』に出遇われました。そして煩悩具足の身のままに救われる念仏易行の一門に通入された感動を以って『顕浄土真実教行証文類』を著されました。宗祖聖人が出遇われたその『大無量寿経』には「如来無蓋の大悲をもって三界を矜哀したまう。世に出興したまう所以は、道教を光闡して、群萌を拯い恵むに真実の利をもってせんと欲してなり」と説かれてあります。まことに真実の

教えに値い真実の救済に遇うことは無量億劫にも得難いことであります。本願他力の大道が、もし聖人によって明らかにされることがなかったならば、私共の人生はどうなっていたでしょうか。まさに宗祖の遺された言葉の一言一句が「無明長夜の灯炬」として私達を導き続けてくださったのであります。

爾来、身命を省みずして今現在説法したまう親鸞聖人と対面し、聞法求道に励み続けた歩みこそ、真宗門徒の伝統であり「帰命無量寿如来」から始まる歓喜の歌、「正信念仏偈」を朝夕勤めてきた姿こそ真宗門徒の証しであります。

二〇一一年に真宗本廟における宗祖御遠忌法要が真宗同朋会運動を表現する御仏事として厳修されました。その千載一遇の法縁に遇い得た私達一人ひとりの責任と使命として、新しい交わりを成就する仏法を基とする社会の実現に向け、今後とも帰依三宝の内実をいよいよ確かめてまいらなければなりません。

願わくはこのたびの金沢教区御遠忌法要が「宗祖としての親鸞聖人に遇う」機縁となり、また聖人のみ教えをあらためてこの身に聞き開き、願生浄土に生きんとする御同朋の交わりの場となりますよう切に念願し、お祝いの言葉といたします。

ご挨拶

御遠忌委員会委員長
金沢教区会議長
坂本　学

いよいよ「金沢教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」が、鶴来・金沢両別院で厳修されます。教区御遠忌は新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となり、私たちは待ち遠しい三年間を過ごすこととなりました。

しかし、その間、金沢教区の僧侶・門徒は、それぞれに御遠忌テーマ「よろこびは　いつもここに　―今、親鸞さまに出あう時―　」を胸に、御遠忌の意味を考える大切な時間をいただいたのではないかと考えています。

そして、その思いが、儀式作法の研鑽や法要の習礼となり、また講演会・聞法会の開催、様々なイベントを企画・実施するという動きになりました。今、教区人一人ひとりが、それぞれの「場」で御遠忌に参画し、各々の表現を通して親鸞聖人を発信しています。まさに私たち自身が親鸞聖人の教えをどう受けとめ、いただいているのかを確認し、そのことが同時に周りの有縁の人々に念仏に生きた親鸞聖人を伝えることになっていると改めて強く感じています。

もともと仏教は、本当の自分に出あい、頷くことを、そのよろこびとしています。「仏道をならふといふは、自己をならふなり」。これは鎌倉時代の禅僧道元の言葉です。教えによって、自分自身があきらかになると述べています。そして大谷大学初代学長の清澤満之は「自己とは何ぞや。是れ人世の根本的問題なり」と自分に出あうこと、自身を知ることの大切さを語りかけています。教えを伝えていくことだけにかかわらず、各自が色々なことに関わり合うことによって自分自身があきらかになり、本当の自己に出あうことになるのでは、とも思います。

最後にこの御遠忌の円成が、これからの金沢教区や宗門のあり方を考える、まさに真宗の「再興」、そのはじまりとなることを願っています。

ご挨拶

金沢教務所長　髙桒（たかくわ）　敬和（たかかずと）

ここ金沢教区において、門徒、僧侶、有縁の方々の尊いご懇念を賜り、いよいよ「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」が厳修されることとなりました。二〇二〇年五月に厳修される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大や、教区の本山経常費未納問題などの事柄を経ての厳修となります。

この教区御遠忌が初めて発案されたのは二〇〇八年のことです。その後の二〇一一年には東日本大震災、そして「被災者支援のつどい」として勤められた真宗本廟（東本願寺）での「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」を、私たちは体験いたしました。

二〇一三年に提出された教区御遠忌計画概要には、宗門の御遠忌円成を受けて、金沢教区の御遠忌をお迎えするにあたり、

①宗門御遠忌の基本理念「宗祖としての親鸞聖人に遇う」と、同テーマである「今、いのちがあなたを生きている」を確認する。

②教区内全ヵ寺が聞法の道場としての機能を回復する。

③門徒・僧侶共に真宗同朋会運動の願いに生きる機縁となる御遠忌を計画する。

④その初めとして教区・別院が一体となって、御遠忌を厳修する体制を整える。

という内容が示されています。

この教区御遠忌に向けて提示された四つの行動目標は、教区御遠忌法要後においても継続されなければならないものと、強く受け止めています。

いま私たちの生活は、「戦争」という現実のただ中に在ります。弥陀の本願は「南無阿弥陀仏」となって、「十方衆生よ」、「世界の人びとよ」と私たちに呼びかけています。そして、大きく動揺するこの世からは、人間としての生きかたが問われています。

親鸞聖人の七百五十回御遠忌法要を営む理由は、私たち一人ひとりが、それぞれの人生に対する態度を、親鸞聖人のご生涯にたずねていくことだと、いただいております。

この教区御遠忌が機縁となり、親鸞聖人にたずねていく仏法領が広開され、承継（しょうけい）されていくことを請い願います。

真宗大谷派門首　表白

謹んで、弥陀・釈迦二尊、並びに三世十方の諸仏に申し上げます。

本日ここに、有縁の同朋あい集いて、恭しく尊前を荘厳し、懇ろに聖教を拝読し、仏徳を讃嘆して、金沢教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を厳修いたします。

それ、宗祖親鸞聖人の撰述された『顕浄土真実教行証文類』をもって三宝帰依の相を案ずるに、まず、その序に言く、

「竊かに以みれば、難思の弘誓は難度海を度する大船、無碍の光明は無明の闇を破する恵日なり」と。

宗祖親鸞聖人は、三国七祖のお導きによって『大無量寿経』の教説に遇われ、私たち迷い多き凡愚の身が不思議に拯済われる念仏易行の大道に立ち、その感動をもって『顕浄土真実教行証文類』をあらわされました。聖人は、如来の本願に相応されたその歩み

において、南無阿弥陀仏の教えを現実生活のただ中に興され、今日もなお「共に願生浄土の道を歩まん」と励ましてくださっています。私たちは共に、聖人のみ声を聞信しつつ、ここにあらためて法要厳修の意義を確かめるものであります。

次に、顕浄土真実信文類序に言く、

「末代の道俗・近世の宗師、自性唯心に沈みて浄土の真証を貶す、定散の自心に迷いて金剛の真信に昏し」と。

ことに、我が思いを頼みとし、我が心をよしとして、長く迷いの海に沈んでいる群萌の苦悩を我が苦悩とし、それを哀れみ同感して、すべての衆生を助けんとする阿弥陀如来の誓願を、聖人は深く信じて念仏申す身となられました。私たちが、日々お勤めしている『正信念仏偈』は、まことに「如来よりたまわりたる信心」に生きる聖人の歓喜の偈であり、その響きをとおして、私たちは仏道を歩む確かさを生活の中にいただいています。釈尊及び諸仏のお導きによって、かたじけなくも救済の歴史に加えられる事実は、生死無常の世界を生きる私たちにとって、何ものにも替え難い、尊きことと受けとめるもので

あります。

次に、顕浄土方便化身土文類に言く、

「竊かに以みれば、聖道の諸教は行証久しく廃れ、浄土の真宗は証道いま盛なり」と。

聖人の御一流にあずかる私たちは、ここに御遠忌の御仏事をつとめさせていただく、またとない機会を得ました。

仏教が人類にひらかれた教えとして現代に存在し続ける意義は、この私一人の生涯において証しされるものであります。人間の理知分別の限界が露わとなりながらも、引き返せない混迷の時代にあって、念仏の教えは、生活に確かな方向を与え、懈慢界に留まろうとする自らの有り方を常に厳しく知らせてくださいます。

いよいよ、聖人の「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり」とのご述懐を深く受けとめ、帰依三宝の精神において示される真の共同体、すなわち「僧伽」の意義を、人間の現実のうえに聞き開かずにはおれません。ここに、

金沢教区を挙げて、常に自信教人信の誠を尽くし、あらためて同朋社会の顕現に努めることを誓うものであります。

伏して申し上げます。仏祖の御照護を請い、如来広大の威徳を讃え奉り、二〇二三年五月二十一日、真宗大谷派門首　釋修如　敬って申し上げます。

鶴来別院 5月13日(土) 法要日程

10時30分 帰敬式法話 松扉等氏（金沢市二俣町 本泉寺） ―― 約25分
11時 帰敬式（鍵役執行） ―― 約45分
13時 法話 大窪康充氏（白山市安吉町 浄土寺） ―― 約25分
13時30分 御遠忌委員会委員長 挨拶
逮夜（御参修） ―― 約60分

先 乱声
出仕 下臈出仕
次 着座楽
次 総礼
次 文類偈 真四句目下
念仏讃 淘八 三重念仏 附物
和讃 弥陀成仏ノコノカタハ 次第六首
五遍反
次 回向 世尊我一心 附物

浄土真宗

宗祖親鸞聖人は「よきひと」法然上人との出遇いを通して、阿弥陀仏の本願念仏の教えに立つことができました。その出遇いの意味を生涯にわたる聞思の中で、『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』を撰述することによって確かめ、その教えを「浄土真宗」と顕かにされました。

真宗大谷派

本山を真宗本廟と称し、東本願寺の名称で親しまれています。御真影を安置する御影堂と御本尊を安置する阿弥陀堂の両堂があります。

帰敬式

古くから「おかみそり」といわれ、人として生まれた意義と生きる喜びを見出したいと願う私たちにとって、如来の教えを拠り所として生きる、歩みの出発を期す大切な儀式です。この帰敬式では、「おかみそり（剃髪）」を受け、仏・法・僧の三宝に帰依することを誓い、法名をいただきます。

念仏申す生活の中に如来の本願を聞きひらき、あらゆる人々を御同朋御同行として敬われた親鸞聖人を宗祖と仰ぎ、共に仏道を歩む真宗門徒になろうとする出発の儀式が帰敬式なのです。

金沢別院報恩講-帰敬式の様子-（2019年）

14時30分 次 総礼
次 退出楽
退出 下臈退出
御俗姓
終了予定

灯明リレー

主催：金沢教区大谷スカウト協議会

5月2日(火) 金沢別院出発 翌3日真宗本廟にて灯明受渡式
5月5日(金) 8時から鶴来別院本堂にて灯明到着式
〃 15時30分から金沢別院本堂にて灯明到着式を予定

京都・真宗本廟から金沢・東別院へと灯明をお運びします。そのリレーされた灯明を用い、御遠忌法要が営まれるということを通して、浄土真宗の教えが「私」にまで届いた歴史や伝え繋いできた人の縁を感じていただくことを願い、開催されます。

鶴来別院

5月14日(日) 法要日程

7時 晨朝 ―― 約40分
- 先出仕
- 次総礼
- 次正信偈 真読
- 念仏讃 淘八
- 和讃 本師龍樹菩薩八 次第六首
- 五遍反
- 次回向 我説彼尊功徳事
- 次総礼
- 次退出
- 御文 鸞聖人(三―九)

9時30分 法話 ―― 約25分
- 熊谷 宗惠氏(金沢市石引 仰西寺)

10時 庭儀 ―― 約60分

11時 舞楽 ―― 約30分

13時 宗務総長 挨拶

日中(御参修) ―― 約120分
- 先着座楽
- 出仕 下臈出仕
- 次総礼

登高座

御本尊の正面にあります礼盤に登壇して、儀式の導師を勤める作法を登高座といいます。表白(法要の趣旨や願いを申し述べること)や経典読誦の導師を勤めます。

金沢別院報恩講-登高座の様子-(2022年)

雅楽・舞楽

落慶法要、御遠忌法要、報恩講などの大きな法要時には、荘厳に雅楽が用いられます。元来雅楽には、管弦楽と舞楽の二つの演奏形態があります。当派の雅楽では、法要儀式の進行にふさわしい形態となっており、用いられる楽器は、笙、篳篥、龍笛、鞨鼓、太鼓、鉦鼓です。雅楽に舞が伴うと舞楽と呼ばれ、浄土の荘厳の一つとして法要舞楽が行われてきました。このたびの御遠忌法要には、金沢「澄音会」の皆様に携わっていただいています。

15時
- 次伽陀 稽首天人 附物
- 次登高座楽 登高座
- 次表白 ―― 〔10頁参照〕
- 次伽陀 先請弥陀 附物
- 次御経 仏説無量寿経(抄) 音木有之
- 次伽陀 万行倶廻 附物
- 次賦華籠楽 漢音阿弥陀経
- 行道散華
- 次撤華籠楽 兼 下高座楽
- 下高座
- 次伽陀 若聞此法 附物
- 次総礼
- 次願生偈
- 念仏讃 淘八 三重念仏 附物
- 和讃 三朝浄土ノ大師等 次第三首
- 次回向 願以此功徳 附物
- 次総礼
- 次退出楽
- 退出 下臈退出

終了予定

金沢教区蓮如上人五百回御遠忌法要
-金沢別院での舞楽-(2001年)

金沢別院 5月19日(金) 法要日程

10時
御遠忌委員会委員長挨拶　合唱団「蓮」代表挨拶
音楽法要――約45分
一　入　堂
二　出仕曲
三　着座曲
四　総　礼
五　登高座曲
六　三帰依
七　表　白
八　散華曲
九　下高座曲
十　総　礼
十一　正信偈　真読
十二　念仏・和讃　「一一のはなのなかよりは」
十三　回　向
十四　総　礼
十五　退出曲
十六　退　堂

逮夜・晨朝・日中

真宗大谷派の法要は、午後のお勤めの「逮夜」に始まり、翌朝の「晨朝」、そして「日中」と勤まり、それらを一括りで「一昼夜」と言います。このたびの御遠忌法要は、鶴来別院では一昼夜、金沢別院では二昼夜として厳修されます。

音楽法要

音楽法要とは、西洋音楽の表現による法要です。東本願寺では1961(昭和36)年の宗祖親鸞聖人七百回御遠忌法要において、松下眞一氏(作曲家)制作の音楽法要曲を用いて初めて法要が勤まりました。以来、4月1日の親鸞聖人御誕生会は音楽法要によって勤まっています。今回勤めます音楽法要は、東本願寺における2011年の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を機に新

11時
13時
13時30分
舞　楽――約30分
法　話　藤原千佳子氏(川北町字壱ツ屋 浄秀寺)――約25分
御遠忌委員会委員長挨拶
初逮夜――約60分
先　乱　声
出　仕　下臈出仕
次　着座楽
次　総　礼
次　正信偈　真四句目下
念仏讃　淘八　三重念仏　附　物
和讃　弥陀成仏ノコノカタハ　次第六首
五遍反
次　回　向　世尊我一心　附　物
次　総　礼
次　退出楽
退　出　下臈退出
御　文　大坂建立(四ー十五)
14時30分
終了予定

実徳英氏(作曲家)による新たな音楽法要曲を用います。僧侶と門徒が共にお勤めできるよう次第が編集されています。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要
-真宗本廟、御影堂での音楽法要の様子-(2023年4月1日)

金沢別院 5月20日(土) 法要日程

6時 初晨朝（御参修）――約45分
- 先 出仕
- 次 総礼
- 次 正信偈 中読
- 念仏讃 淘八
- 和讃 本師龍樹菩薩八 次第六首
- 五遍反
- 次 回向 我説彼尊功徳事
- 次 総礼
- 次 退出
- 御文 毎年不闕（三―十一）

9時 縁儀――約60分
- 御遠忌委員長挨拶
- 高額進納者代表者表彰

10時 初日中（御参修）――約80分
- 先 着座楽
- 出仕 下臈出仕
- 次 総礼
- 次 伽陀 稽首天人 附物
- 次 登高座楽
- 登高座
- 次 式初段
- 次 伽陀 若非釈迦 附物
- 次 念仏
- 次 式二段
- 次 伽陀 世尊説法 附物
- 次 念仏
- 次 式三段
- 次 伽陀 身心毛孔 附物
- 次 念仏
- 次 嘆徳文
- 次 下高座楽
- 下高座
- 次 伽陀 直入弥陀 附物
- 次 総礼
- 次 文類偈 草四句目下
- 念仏讃 淘八 三重念仏 附物
- 和讃 生死ノ苦海ホトリナシ 次第四首
- 次 回向 願以此功徳 附物
- 次 総礼
- 次 退出楽
- 退出 下臈退出

13時 帰敬式法話 相馬豊氏（白山市相川町 道因寺）――約25分

13時30分 結願逮夜（御参修）――約90分
- 先 乱声
- 出仕 下臈出仕
- 次 着座楽
- 次 総礼
- 次 文類偈 句切
- 念仏讃 淘十 三重念仏 附物
- 和讃 五十六億七千萬 次第六首
- 七遍反
- 次 回向 世尊我一心 附物
- 次 総礼
- 次 退出楽
- 退出 下臈退出
- 御俗姓

15時30分 帰敬式（門首執行）――約60分

16時30分 舞楽――約30分

17時 終了予定

行道（庭儀・縁儀）

重要な法要において行われる儀式で、行列を作って道を歩きます。行道散華はご本尊を中心として列をなし練り歩きながら仏前に華（はなびら）を散布し、仏を讃嘆するもので、縁側をめぐる縁儀や庭までめぐる庭儀があります。14日の鶴来別院では庭儀、金沢別院では20日に縁儀、21日には庭儀が行われます。

金沢教区蓮如上人五百回御遠忌法要
-金沢別院での庭儀の様子-（2001年）

金沢別院 5月21日(日) 法要日程

6時 結願晨朝（御参修） ―― 約50分
- 先　出仕
- 次　総　礼
- 次　正信偈　真読
- 念仏讃　淘十
- 和讃　南無阿弥陀仏ノ回向ノ　次第六首
- 七遍反
- 次　回　向　我説彼尊功徳事
- 次　総　礼
- 次　退　出
- 御　文　御正忌（五―十一）

9時30分 法話　木越樹氏（かほく市高松　光専寺） ―― 約25分

10時 庭儀 ―― 約60分

11時30分 舞楽 ―― 約30分

12時30分 宗務総長 挨拶

高額進納者代表者表彰

結願日中（御親修）（御参修） ―― 約120分
- 先　着座楽
- 出　仕　下臈出仕
- 次　総　礼
- 次　伽　陀　稽首天人　附物
- 次　登高座楽
- 登高座
- 次　表　白 ―― （10頁参照）
- 次　伽　陀　先請弥陀　附物
- 次　御　経　仏説無量寿経巻上　音木有之
- 次　伽　陀　万行倶廻　附物
- 次　賦華籠楽
- 次　漢音阿弥陀経
- 行道散華
- 次　撒華籠楽 兼 下高座楽
- 下高座
- 次　伽　陀　若聞此法　附物
- 次　総　礼
- 次　願生偈
- 念仏讃　淘十　三重念仏　附物
- 和讃　三朝浄土ノ大師等　次第三首
- 次　回　向　願以此功徳　附物
- 次　総　礼
- 次　退出楽
- 退　出

14時30分 門首御挨拶

14時40分 終了予定

門首・鍵役

門首は、真宗大谷派のすべての僧侶及び門徒を代表して、真宗本廟の宗祖親鸞聖人御真影のお給仕と仏祖崇敬の任にあたります。そして、僧侶及び門徒の首位にあって、同朋とともに真宗の教法を聞信する地位として定められています。

鍵役は、儀式について門首を補佐する職務で、宗祖親鸞聖人の御真影の安置されている御厨子の扉を、毎日開け閉めされています。

門首が出仕することを「御親修」といい、鍵役が出仕することを「御参修」といいます。

御遠忌

御遠忌とは、宗祖親鸞聖人、真宗再興の祖である本願寺八代蓮如上人の、五十年に一度厳修される年忌法要を指します。

御遠忌は、親鸞聖人が顕かにし、蓮如上人が分かり易く広めてくださいました真宗・念仏の教えを私たち自身が確かめ、そして未来の多くの人たちに伝えていくための大切な仏事・法要です。

金沢教区蓮如上人五百回御遠忌法要
-金沢別院-（2001年）

金沢別院周辺図

駐車及び乗降場所はありません

［境 内］
- ●キッチンカー
  5/19(金)3台　5/20(土)6台　5/21(日)10台
- ●法蔵館書店
- ●谷内正遠（木版画）販売コーナー
- ●金澤表参道（横安江町商店街）

案内図

鶴来別院周辺図

子どもごえんき

主催:子どもごえんき実行委員会

5月28日(日)

時間 10時～15時

会場 真宗大谷派 金沢別院
(石川県金沢市安江町15-52)

※当日は各自で、念珠と水筒をご持参ください。未就学児の方は、必ず保護者の同伴をお願いします。
※駐車場はありません。また、安全のため入口周辺での乗り降りはできませんので、ご注意ください。

「なむあみだぶつ」を広めたしんらんさまが亡くなって750年がたちます。
長い年月がたつと「なむあみだぶつ」が忘れ去られ、人と人とのつながりがバラバラになってしまいます。
「なむあみだぶつ」のこころ、そして、人と人とのつながりを取り戻すために、50年に1度みなが集うことを「ごえんき」といいます。今回のごえんきは、新しくなった別院でのでの開さいです。
「なむあみだぶつ」を一人ひとりのもとへ取り戻すミッションへ出発しよう!
みんなの力を貸してくれ!

法要(おつとめ)に参加されたお子さんには記念品と食事券※がつきます。
※当日キッチンカーで利用できる食事券をお渡しします。

日程
10:00 オープニング
10:20 法要(おつとめ「正信偈」)
10:50 休憩
11:10 音楽劇「セロ弾きのゴーシュ」
〈上演〉わらべうたとえんげきの広場 はちみつ
12:10 劇終了
13:00 イベント開始(謎解きゲーム、しんらんさま○×クイズ、法話マジック教室、念珠作り)
15:00 エンディング

詳細と事前お申し込みはこちら
@KODOMOGOENKI

別院のあゆみ展

主催:別院のあゆみ展実行委員会

金沢別院の歴史を振り返る。
ゆかりの品や期間限定で宝物も展示します。

4月1日(土)～5月31日(水)

時間 9時～16時

特別展 真宗王国北陸の宝物展

5月12日(金)～18日(木)

※12日は13時～

会場 真宗会館1階ホール・会議室(特別展)

金沢別院ゆかりの品展示

金沢別院の歴史をたどるパネル

花展

主催:金沢教区大谷婦人会連絡協議会

5月19日(金)～21日(日)

金沢教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌
記念講演

主催:御遠忌委員会教化部会

4月28日(金)

時間 13時30分～15時40分

会場 真宗大谷派 鶴来別院 本堂
(石川県白山市鶴来清沢町ヨ12)

講師 三明(みはる) 智彰(としあき) 氏
(九州大谷短期大学学長)

講題 現生不退のあゆみ
～親鸞聖人と出遇う所～

日程 13:30 開会(真宗宗歌・勤行・挨拶)
14:00 講演 [90分] 途中10分の休憩有
15:40 閉会(挨拶・恩徳讃)

三明 智彰氏 略歴
1954年青森県弘前市生まれ。早稲田大学卒、東京大谷専修学院卒、大谷大学博士後期課程真宗学専攻単位取得。現在九州大谷短期大学学長。量深学場主宰。明教寺前住職。

主な著書
『歎異抄講義』上・下、『願心の目覚め』、『親鸞の阿闍世観ー苦悩と救いー』、『阿弥陀経講話』(以上法蔵館)、『心を満たす智慧』(産経新聞社)、『信心の書歎異抄講座』(大法輪郭)、『ほんとうの幸せー出遇いー』(量深学場叢書4)。

講師について
三明氏には2018年5月に開催した教区同朋大会でご講演をいただきました。このたびの教区御遠忌では、氏が学長を務める九州大谷短期大学が制作した「親鸞聖人の切り絵」を使用するというご縁をいただきました。

6月5日(月)

時間 13時30分～15時40分

会場 真宗大谷派 金沢別院 本堂
(石川県金沢市安江町15-52)

講師 平(たいら) 雅行(まさゆき) 氏
(大阪大学名誉教授)

講題 親鸞のあゆみとこころ

日程 13:30 開会(真宗宗歌・勤行・挨拶)
14:00 講演 [90分] 途中10分の休憩有
15:40 閉会(挨拶・恩徳讃)

平 雅行氏 略歴
1951年大阪市生まれ。1975年京都大学文学部史学科卒業。1981年京都大学大学院博士後期課程研究指導認定退学。1984年京都橘女子大学文学部助教授。1986年関西大学文学部助教授。1989年大阪大学文学部助教授、1996年同教授、2015年同名誉教授。京都学園大学人文学部教授。現在は大阪大学名誉教授。京都先端科学大学名誉教授。

主な著書
『日本中世の社会と仏教』(塙書房、1992年)、『鎌倉仏教と専修念仏』(法蔵館、2017年)、『親鸞とその時代』(法蔵館、2001年)、『歴史のなかに見る親鸞』(法蔵館、2011年)、『改訂 歴史のなかに見る親鸞』(法蔵館文庫、2021年)。

講師について
平氏には教区御遠忌を迎えるにあたり、教区教化委員会において2015年から2019年の5年間、全5回にわたりご講演をいただきました。延期された教区御遠忌の結びにお越しいただきます。

おてらくご

主催:金沢教区仏教青年連盟

「お寺」+「落語」で「おてらくご」!
金沢・鶴来両別院で開催します!

4月22日(土)

時間 10時～12時

会場 真宗大谷派 鶴来別院
(石川県白山市鶴来清沢町ヨ12)

出演 立川(たてかわ) 志らら(しらく) 氏
笑福亭(しょうふくてい) 瓶二(へいじ) 氏

法話 鶴来別院輪番

5月12日(金)

時間 18時～20時

会場 真宗大谷派 金沢別院
(石川県金沢市安江町15-52)

出演 立川(たてかわ) 吉幸(きっこう) 氏
立川(たてかわ) 小談志(こだんし) 氏

法話 金沢別院輪番

ほのぼのバザール

主催:ほのぼのバザール実行委員会

不用品バザーや育児相談会、
講師によるお話し会を実施!

5月7日(日)

時間 11時～15時

会場 真宗会館1階ホール

講師 佐賀枝(さがえ) 夏文(なつふみ) 氏(大谷大学名誉教授・青少幼年センター研究員)
森田(もりた) 綾(あや) 氏(作業療法士・にじのわママとこどもの育ちラボ代表)

ダキシメルオモイ展&音楽のつどい

主催:金沢教区合唱団「蓮」

[ダキシメルオモイ展]5月9日(火)～10日(水)

時間 10時～16時　会場 真宗会館1階ホール 廊下・ロビー

[トークショー]5月9日(火)

講師 小林 憲明(こばやし のりあき) 氏(ダキシメルオモイ展作者)

本山の御遠忌の年に発生した東日本大震災を機に現地で頑張る皆さんたちのオモイを知り、何とか力添えしたいとのオモイからはじまったダキシメルオモイ展。オモイに囲まれながら様々な音楽を通し、色々な方とふれ合ってみませんか。音楽一つ一つが何かの形で真宗の教えにつながってもらえたら嬉しいです。

[音楽のつどい]5月10日(水)

時間 10時～16時

会場 真宗会館1階ホール

御遠忌讃仰講演会

「医療の現場で“生きること”を学ぶ」

～Learning "to Live" at the Frontline of Medical Practice ～

主催:ビハーラかなざわ

あの人(患者さん)の言ったことは、あの振る舞いはどういうことなのか?
医師であり僧侶でもある岸上先生との出会いで心にそっと絡まっている糸がほどけるかもしれません。

5月27日(土)

時間 14時～16時

会場 真宗会館1階ホール

講師 岸上 仁(きしがみ ひとし) 氏(脳神経内科専門医、真宗大谷派僧侶)

第51回石川地区同朋大会 金沢教区御遠忌讃仰音楽法要

主催:真宗大谷派金沢教区石川地区

音楽法要を厳修するとともに、金沢以南における750年の真宗のあゆみを確かめ、
真宗の土徳としての今後の御講のあり方を検証してゆく。

6月2日(金)

時間 13時30分～16時15分

会場 真宗大谷派 鶴来別院
(石川県白山市鶴来清沢町ヨ12)

講師 木越 祐馨(きごし ゆうけい) 氏(能登教区第5組光琳寺住職)

講題 親鸞聖人に聞く善き人にも悪しきにも

事業報告

- ☐ **夏の集い～お寺で夜まで遊ぼう!～** 主催:金沢教区児童教化連盟
  開催日:2022年8月26日(金)
- ☐ **内陣での所作法に親しむ** 主催:金沢教区掛役の会
  開催日:【第1回】2022年9月10日(土)【第2回】2022年12月17日(土)
- ☐ **御遠忌の儀式作法の伝授と心得を学ぶ** 主催:金沢教区掛役の会
  開催日:【第1回】2023年1月17日(火)　【第2回】2023年2月10日(金)
- ☐ **新作表白コンテスト** 主催:金沢教区教学研究会修了生の会
- ☐ **御遠忌讃仰講演会** 主催:東別院聞法会・金沢真宗学院同窓会
  開催日:2022年12月6日(火)、2023年3月12日(日)
- ☐ **金沢教区御遠忌讃仰 浄土三部経輪読会** 主催:金沢教区推進員連絡協議会
  開催日:毎月1回
- ☐ **シンポジウム「金沢と親鸞」** 主催:「金沢と親鸞」実行委員会
  開催日:2023年4月11日(火)

1173年（承安3）親鸞1歳……京都にて誕生。

1175年（安元1）親鸞3歳……法然上人、専修念仏を唱える。

1181年（養和1）親鸞9歳……養和の飢饉。平清盛没。後の天台座主慈円の僧坊にて、出家得度し、比叡山に入る。「範宴」と称する。

1182年（寿永1）親鸞10歳……恵信尼、誕生。

1185年（元暦2・文治1）親鸞13歳……壇ノ浦の戦いで平家滅亡。文治の大地震。

1192年（建久3）親鸞20歳……源頼朝、征夷大将軍となる。

1198年（建久9）親鸞26歳……法然上人、『選択本願念仏集』撰述。

1201年（建仁1）親鸞29歳……比叡山を下り、六角堂に参籠。夢告により法然上人の門に入る。

1204年（元久1）親鸞32歳……法然上人が門弟を戒めた「七箇条制誡」に「僧綽空」と署名する。

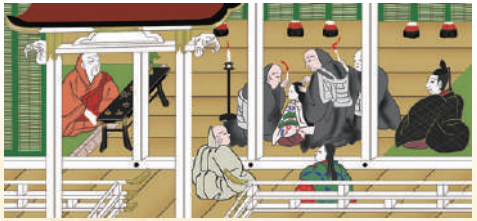
1205年（元久2）親鸞33歳……『選択本願念仏集』の書写と法然上人の真影を図画する。興福寺が専修念仏の停止を求める（興福寺奏状）。

1207年（承元1）親鸞35歳……専修念仏への弾圧によって、法然上人とともに処罰され、法然上人は土佐（実際には讃岐）、親鸞聖人は越後へ流罪となる（承元の法難）。

1211年（建暦1）親鸞39歳……法然上人とともに流罪を赦免される。

1212年（建暦2）親鸞40歳……法然上人没。（80歳）

流罪　35歳



得度　9歳

1214年（建保2）親鸞42歳……越後から関東へ。上野国佐貫で「三部経千部読誦」を発願するがのちに中止する。やがて常陸国へ向かう。

1221年（承久3）親鸞49歳……承久の乱。幕府、後鳥羽上皇を隠岐へ配流。

1224年（元仁1）親鸞52歳……このころ『教行信証』を書きすすめる。覚信尼、誕生。

1227年（嘉禄3）親鸞55歳……比叡山の僧たちが法然上人の墳墓をあばき、『選択本願念仏集』の版木を焼こうとする（嘉禄の法難）。

1232年（貞永1）親鸞60歳……このころ帰京か。『教行信証』を晩年まで改訂し続け、様々な著書も生涯かけて著述し続ける。

1248年（宝治2）親鸞76歳……『浄土和讃』・『高僧和讃』を作る。

1250年（建長2）親鸞78歳……『唯信鈔文意』を著す。

1252年（建長4）親鸞80歳……『浄土文類聚鈔』を著す。

1255年（建長7）親鸞83歳……『尊号真像銘文』・『浄土三経往生文類』・『愚禿鈔』を著す。

1256年（建長8）親鸞84歳……息子である慈信房善鸞を義絶する。

1257年（康元2）親鸞85歳……『一念多念文意』を著す。

1258年（正嘉2）親鸞86歳……『正像末和讃』を補訂する。

1262年（弘長2）親鸞90歳……11月下旬、老衰と病のため伏す。11月28日、弟尋有の京都善法院で入滅。11月29日、東山鳥辺野に火葬。　11月30日、拾骨。

顕浄土真実教行証文類（坂東本）

入滅　90歳

御本山御用達

(株)平安法衣店

〒600-8153 京都市下京区東本願寺大門前
電　話(075)351－3681番㈹
ＦＡＸ(075)351－5563番

創業慶応元年

加賀麩 不室屋

地域の笑顔のため
～みんなが喜ぶ街つくり～

株式会社竹松組
石川県金沢市大浦町ト６９番地
TEL(076)258-5511・FAX(076)257-6219
URL：http:www//takematugumi.co.jp/

愛と和を育む家づくり

株式会社アイワホーム

【本店営業部 ATERA】
野々市市押野３丁目 65 番地　076-225-3000

【東営業所】
金沢市京町 30 番 32 号

【本店（工事本部）】野々市市押野３丁目 61 番地

協賛企業

営　業　品　目

記念品	御法要	貸衣裳	稚児装束	仏具	散華御香	中啓檜扇	肩衣念珠	縫打敷	錦金襴	御法衣

〒920-0854 金沢市安江町13-31

(有) 林　法衣店

電話 (076)231-6847番
FAX (076)231-7664番

株式会社 花好

(室與蠟舗)

和洋・生花・花環・庭園・装飾
寺院用ローソク・線香・御香 専門

〒920-0015 金沢市諸江町上丁468

☎264-8744(代)
FAX 264-8746

平和堂 ☎224-8744(アルプラザ金沢店)

浅田屋

笠間製箔株式会社

笠間仏壇

金沢 笠間仏壇

荘厳一式・法衣

金沢 笠間屋
KASAMAYA

一期一縁のおもてなし。

ホテル日航金沢

〒920-0853 石川県金沢市本町2-15-1
(JR金沢駅兼六園口前)
TEL 076-234-1111
FAX 076-234-8802
www.hnkanazawa.jp

葬祭式典 シオタニ

TEL.076-232-1311

公式ホームページは、
こちらのＱＲコードより

https://www.sousiki.co.jp/

「もっと」な印刷物をご提案

「もっと」を実現 小西印刷
076-231-5379

一般設計施工・工事請負
有限会社 高嶋工務店

PR ENGINE

総合広告代理店　株式会社PR ENGINE
〒921-8163
石川県金沢市横川7-35-1 ルミエール横川2F
TEL.076-227-8855

テレビCM WEB動画
各種印刷物 パンフレット・チラシ
インターネット広告 YouTube広告

金沢滞在を、真の金沢体験へ。

ANA CROWNE PLAZA
AN IHG HOTEL
KANAZAWA

ANAクラウンプラザホテル金沢
〒920-8518 石川県金沢市昭和町 16-3

協賛企業

サンレー 紫雲閣

0120-594830

株式会社
茶山金物

株式会社 ベルセレマ

ご安心の
24 時間待機

株式会社 村井

セレモニー会館兼六
(西泉・駅西・城北・笠舞・扇が丘)
兼六互助センター

〒921-8031 金沢市野町1丁目1番17号
TEL(076)243-1325　FAX(076)243-9781
http://www.murai-web.com　E-mail muraigrp@po.inci.ne.jp

株式会社 チャンピオンカレー

オークス
セレモニーホール 金沢

金沢教区 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

全体日程

時間	5月13日(土)	5月14日(日)	5月19日(金)	5月20日(土)	5月21日(日)
	鶴来別院		金沢別院		
6:00				初晨朝 [6時から45分]	結願晨朝 [6時から50分]
6:30					
7:00		晨朝 [7時から40分]			
7:30					
8:00					
8:30					
9:00				縁儀 [60分]	
9:30		法話[25分] (熊谷 宗惠氏)			法話[25分] (木越 樹氏)
10:00		庭儀 [10時から60分]	音楽法要 [10時から45分]	初日中 [10時から80分]	庭儀 [10時から60分]
10:30	帰敬式法話[25分] (松扉 等氏)				
11:00	帰敬式[45分]	舞楽[30分]	舞楽[30分]		
11:30					舞楽[30分]
12:00					
12:30					結願日中 [12時30分から 120分]
13:00	法話[25分] (大窪 康充氏)	日中 [13時から 120分]	法話[25分] (藤原 千佳子氏)	帰敬式法話[25分] (相馬 豊氏)	
13:30	逮夜 [13時30分から 60分]		初逮夜 [13時30分から 60分]	結願逮夜 [13時30分から 90分]	
14:00					
14:30					門首御挨拶
15:00					
15:30				帰敬式 [60分]	
16:00					
16:30				舞楽[30分]	
17:00					

※時間は目安です。また、時間・内容を変更する場合があります。

よろこびは いつもここに

～今、親鸞さまに出あう時～

《金沢教区御遠忌テーマ》

あの頃は おばあちゃんに手を引かれ 初参りには 我が子を抱いて

そして いまは 孫の手を引いて お参りに

昭和 平成 令和と 移ろう時代のなかでも ずっとお寺は

人に 地域に 寄り添ってきました

そして これからも ずっとそうでありますように